

半歌仙「蝉しぐれ」の巻

土屋日菜 捌

蝉しぐれ序奏は静か裏の山

佐野 仙由

樹々の透き間に赤き夏菜莢

土屋 日菜

集会所太鼓練習賑やかに

水野 森雄

高速道を目指す故郷

井上 輝夫

月明り照らす荒城夢のあと

仙由

秋の小袖の似合う姫君

輝夫

肌寒に二人の想いより深め

桃井 伴子

行方も知らぬ恋に突入

日菜

コロナにて世界経済曲がり角

森雄

。バンドウーラ弾くウクライナびと

仙由

穀物を船積み済ませ出航す

輝夫

童話聴き入る子等の愛しき

伴子

金目鯛姿煮旨し旅の宿

森雄

能登の砂丘に寒暁の月

日菜

新設の青空市を品定め

輝夫

牛蒡はみ出す自転車の籠

仙由

珈琲の香に花卉の舞う窓辺

伴子

酒樽囲み日永楽しむ

森雄

令和四年八月十一日

首尾

裾野夏休み市民連句会

於 桃園集会所